

会山行（沢登り）

甲子山 白水沢 左俣左沢

日程

2016年7月10日（日）

メンバー（A班）

齋藤（C L）、平川（S L）、大曾根、小林、陳

行動時間

記憶不足

天気

晴れ

行動記録および個人的感想

今回の会山行の参加人数は、17人、南沢、白水沢に別れて遡行する。白水沢だけでも9人その中からA班5人、B班4人に別れて遡行した。

私たち数人は、前夜泊をし、近くの駐車場で酒を煽り眠りに就いた。

翌日、天気は、晴れ、齋藤さんの顔は酒効果でつやつや、私はハイテンション、小林さんは二日酔い？という感じで起きた。身支度をして大黒屋に向かい他のメンバーと合流する。

白水の滝をどうするか議論しながら、滝の手前を行った。巻かずに齋藤さんリード。水流の左を登る。陳さんの後付きながら登ったら、陳さんがすでに疲れているような感じがした。どうやら寝不足らしい。朝一はつらい！

適当に泳いだり、水遊びをしながら上がっていった。陳さんが溺れメガネまで沈める、齋藤さんがレスキューチームバリに助けに行きゴーグルを装備しメガネまで回収、かつこよかったです。さすが沢に生きる男！このときに陳さんは、足を軽く負傷してしまった。小林さんは、すべてのお風呂に浸かり体を清めていた。大曾根さんは、大人の水遊びをしていた。そんなこんなで、2本滝を巻き二俣まで歩く。踏み痕が明瞭なので巻きやすい。

二俣では、地図を広げ確認、左俣に行く。楽なゴーロ歩きだ。奥の二股に着く。

奥の二股で大休止、B班の迫さんがスイカを持ってくるからだ。寝たり、くだらない話をしてもB班を待つ、私はこのころ遅れてきた二日酔いにかなりやられていた。沢で二日酔い何とも風情がある。そんなこんなでB班到着、スイカを頂く。二日酔いの身体に沁みる。

即行、左の滝に取り付く。齋藤さんリード。気持ち悪く頭の痛い私には、辛かった。すぐに滝が現れ齋藤さんリード。トライカムを途中で決め上がった。二日酔いの影響で、辛いしか印象がなかった。齋藤さんは、奥さんと昔訪れた時を思い出してきたらしい。謎のチムニーを越える。

小滝とガレを越えて、笹やぶ。癒しのやぶに心を癒され登山道。沢登り自体は終了。陳さんが甲子山の頂上に行きたいと言うことで、頂上へ。景色は、最高だった。謎のトレランを途中までして下山。

あとがき

酒と山の調和があり、沢など正気の沙汰を超えたルートが見えてくるのかもしれない。前夜に酒を煽る。山にとって大切な儀式なのかもしれない。仲間との意思疎通も上がりイイ事づくしだ。二日酔いは嫌だが。。。

比較的、明るい沢でデートなどには、いいかもしれない。

(文:平川)